



干潮の状況

岸近くと沖の方の2カ所で、柔らかなヘドロが数cm堆積したところがあり、気になった。
ある程度行ったところで、熊手を入れたらバカ貝の稚貝がけっこう生息し、8/1日時点よりもずっと多い感じで



バカ貝とアカニシの卵塊

支柱近くでは、数は少ないが3cmくらいのシオフキが見られた。前回いたマテ貝は姿を見なかった。ホンビノス貝もいなかった。
支柱より結構陸側で6.5cmくらいの大きなハマグリ



シオフキ、巻き貝のアカニシ、サルボウ貝

大潮の干潮の時刻である8月31日(土)の10時から12時頃調査。東京湾の干潮は11:41の12cm。ネットが取られていて支柱の外に行ける状況であったが、海底に足が深く入ってしまう柔らかいところが多くあり断念。支柱近くでは水温が30度くらい。沖までに行く途中の水溜りの水温は体温程度であった。



バカ貝だけが場所により結構な密度で生息。

あった。ヘドロが結構堆積していたこともあり、バカガイ稚貝の着底がうまくいって、海の荒れがなく、流れなかったということだろうか。他の貝はいなかった。かたや、生息数が多いので着底が多いと思われるアサリ稚貝が全くいないのが不思議である。

小さいバナナの房のようなものを2個見た。専門家に聞いたら巻き貝のアカニシの卵塊でナギナタホオズキというものとのこと。



飛び出していたハマグリと大きなハマグリ貝殻

が2個飛び出していた。口を閉じていたが、帰宅して海水に入れておいたところ数時間後一つが死んで口を少し開いていた。変な匂いはしなかったので死んで間もないと思われる。もう一つは調理して普通であった。大潮の干潮時に、アサリやシオフキはよく飛び出しているのを見かけるがハマグリははじめてであった。

ハマグリの大きな貝殻を見かけた。9cmくらいと大きく、開いた状態であったので何らかの状況で死んでそんなに日数はたっていないと思われる。

オサガニのものと思われる多数の穴があり、1匹捕まえたなら柔らかく脱皮したてのようであった。また、マメコブシガニを1匹見つけた。

足洗い場で貝類がけっこう入った小さいバケツを見た。中は、アカニシ(巻貝)、シオフキガイ、サルボウ貝などで、持ち主に聞いたところ、支柱の外側の腿までの深さのところを取ったとのこと。